出願の際は、必ず募集要項（冊子）を入手してください。

令和５年度

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）

学 生 募 集 要 項

一　般　入　試
社　会　人　入　試
現　職　教　員　入　試
外国人留学生入試

国立大学法人 鹿屋体育大学（かのや）
NIFS NATIONAL INSTITUTE of FITNESS and SPORTS in KANOYA

〒891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町１番地
公式ホームページ　https://www.nifs-k.ac.jp/

目　　次

1　本学大学院体育学研究科（修士課程）のアドミッション・ポリシー…… 1
2　専攻，試験区分及び募集人員…… 2
3　出願資格…… 2
4　選抜日程…… 3
5　選抜方法…… 4
6　出願書類等の提出先及び照会先…… 4
7　出願方法…… 4
8　出願期間…… 6
9　受験票等の送付…… 6
10　試験場…… 6
11　合格者の発表…… 6
12　回答書の提出…… 7
13　入学手続・入学料等…… 7
14　第２次募集…… 7
15　指導教員及び副指導教員…… 8
16　障害のある者等の事前相談…… 8
17　その他…… 8
18　福利厚生等…… 8
◆本学までの主な交通経路…… 10
◆鹿屋体育大学位置図 …… 11
◆入学検定料の払込取扱票等の記入方法 …… 12
鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）入学案内…… 13
1　体育学研究科体育学専攻（修士課程）の概要…… 14
2　熊本大学・宮崎大学との連携大学院について…… 14
3　体育学研究科体育学専攻（修士課程）担当教員一覧…… 15
4　開設授業科目及び授業担当教員一覧（修士課程）…… 21
5　大学院設置基準第 14 条に定める「教育方法の特例」…… 23
6　長期履修学生制度…… 23

【添付書類】

① 入学願書
② 研究計画書
③ 体育・スポーツ歴調書
④ 研究歴証明書
⑤ 志望理由書
⑥ 競技活動計画書・指導活動計画書
⑦ 指導活動計画書
⑧ 出願書類等提出一覧表
⑨ 受験票・写真票
⑩ 払込取扱票
⑪ 【入学検定料振替払込受付証明書（お客さま用)】貼付用台紙
⑫ 入学試験関係書類在中封筒（黄色）
⑬ 出願用封筒（薄緑色）

【選抜日程等】

出願期間	令和４年 ９ 月 21 日（水）～ ９ 月 27 日（火）
選抜日程	令和４年 10 月 24 日（月）
合格者発表日	令和４年 10 月 28 日（金）
入学手続期間	令和５年 ３ 月 15 日（水）～ ３ 月 22 日（水）

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，入学者選抜試験については，やむを得ず，試験期日等を変更する緊急措置を実施する場合があります。その場合は本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）で公表するとともに，出願者に対しても個別に通知いたします。

入学料特別免除制度

本学では，「入学試験の成績優秀者」を対象とした入学料特別免除制度を設けています。

令和５年度鹿屋体育大学大学院体育学研究科
体育学専攻（修士課程）学生募集要項

1　本学大学院体育学研究科（修士課程）のアドミッション・ポリシー

21 世紀の体育学は，人文・社会科学分野と自然科学分野の諸科学が体系的に融合し，学際的な複合新領域として発展する方向にあります。体育学研究科体育学専攻（修士課程）では，スポーツや身体運動を通して，国民が健康で幸福を享受できる社会の構築に貢献する専門的・実践的な能力の養成及び職業人として中核的な役割を担う人材の育成を目指しています。

◎求める学生像

本課程では，次のような人材を求めています。

- 豊富なスポーツ実践活動の経験を有し，科学的な研究成果を実践へと応用することによって，我が国における競技スポーツや武道実践の分野，体育及びスポーツ教育の分野で中核的な存在として活躍する意志と能力を持つ人
- 生涯スポーツが国民の健康や幸福に与える価値を認め，我が国のスポーツや身体運動に関する文化，地域政策，医療福祉，健康産業，ビジネスなどの分野で中核的な存在として活躍する意志と能力を持つ人
- 国際的な視野と感覚を有し，スポーツや身体運動に関する高い水準の独創的な研究を推進するために，博士後期課程に進学する意志と能力を持つ人
- 体育及びスポーツの分野ですでに活躍している現職者で，本教育課程を通して，さらに高度な専門的能力を身につける意志と能力を持つ人
- 高い競技力を有し，国際的な大会で活躍することができるとともに，我が国の代表として誇れる人格と教養を持ち得るトップアスリート

◎入学者選抜の基本方針

- 一般入試では，各分野で必要な専門知識，研究計画を評価するための筆記試験（論述試験）及び口述試験，英語能力を評価するための外国語（英語）試験，その他提出書類により総合的に評価します。
- 社会人入試では，各分野で必要な専門知識，研究計画を評価するための筆記試験（論述試験）及び口述試験，英語能力を評価するための外国語（英語）試験，その他提出書類により総合的に評価します。
- 外国人留学生入試では，各分野で必要な専門知識，研究計画を評価するための筆記試験（論述試験）及び口述試験，英語能力を評価するための外国語（英語）試験，その他提出書類により総合的に評価します。
- 現職教員入試では，各分野で必要な専門知識，研究計画を評価するための口述試験，その他提出書類により総合的に評価します。

ただし，一般入試，社会人入試，外国人留学生入試のうちスーパー・スチューデント（ＳＳ）及びスーパー・コーチャー（ＳＣ）に認定された者は，各分野で必要な専門知識，研究計画を評価するための口述試験，その他提出書類により総合的に評価します。

２　専攻，試験区分及び募集人員

専　攻	試　験　区　分	募　　集　　人　　員
体育学	一　般　入　試	15 人
	社　会　人　入　試	
	現　職　教　員　入　試	
	外国人留学生入試	

募集人員 15 人には次の⑴～⑵の者を含む。

⑴　ＳＳ・ＳＣ（若干人）

ＳＳ（スーパー・スチューデントの略）とは，競技歴の特に高い者で，一般入試，社会人入試及び外国人留学生入試受験者のうち，事前に本学において認定された者とします。

ＳＣ（スーパー・コーチャーの略）とは，指導歴の特に高い者で，一般入試，社会人入試及び外国人留学生入試受験者のうち，事前に本学において認定された者とします。

※ＳＳ及びＳＣの認定と受入体制に関しては，出願に先立ち，令和４年８月 19 日（金）までに必要書類を提出する必要がありますので，それまでに本学教務課入試係へ問い合わせてください。

⑵　体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムにおいて履修及び研究指導を受ける者（若干人）

14 頁を参照してください。

（注）　本学修士課程においては，転入学及び再入学の制度がありますので，希望者は，本学教務課入試係へ問い合わせください。

３　出願資格

大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）入試に出願できる者は，次の⑴～⑽のいずれかと⑾の両方を満たす者です。

⑴　学校教育法第 83 条第１項に定める大学を卒業した者及び令和５年３月までに卒業見込みの者

⑵　学校教育法第 104 条第４項の規定により学士の学位を授与された者及び令和５年３月までに授与される見込みの者

⑶　外国において，学校教育における 16 年の課程を修了した者及び令和5年3月までに修了見込みの者（注1）

⑷　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育において 16 年の課程を修了した者及び令和５年３月までに修了見込みの者（注１）

⑸　我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和5年3月までに修了見込みの者

⑹　外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において，修業年限が３年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により，学士の学位を授与された者

⑺　専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和５年３月までに修了見込みの者

⑻　文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年２月７日文部省告示第５号）（注２）

⑼　学校教育法第 102 条第２項の規定により大学院に入学した者であって，本学大学院において，本学大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

⑽　本学大学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，令和５年３月までに 22 歳に達するもの（注３）

⑾　大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）入学試験実施日から過去２年以内に TOEFL 又は TOEIC（TOEIC－IP を含む。）を受験し，一定のスコア（TOEFL－iBT は 24 点以上，TOEIC（TOEIC－IP を含む。）は 300 点以上）を取得している者（ただし，学力試験：外国語（英語）において「CASEC」で出願する者，現職教員入試で出願する者及びＳＳ又はＳＣと認定された者は除く。）

（注１）　大学教育修了までの学校教育の課程が 16 年に満たない国において，大学教育を修了した者又は通信教育の授業科目を我が国において履修し，大学教育を修了した者で，大学教育修了後，日本国内又は国外の大学もしくは国立大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において，研究生，研究員等として相当期間（おおむね1年以上とします。）研究に従事しており，かつ，令和５年3月までに 22 歳に達するもので，我が国の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者は出願することができます。

（注２）　文部科学大臣の指定した者に該当する者は，「教育職員免許法による小学校，中学校，高等学校，幼稚園の教諭もしくは養護教諭の専修免許状又は1種免許状を有する者で令和5年3月までに 22 歳に達するもの」などです。

（注３）　個別の入学資格審査の対象となる者は，「短期大学，高等専門学校，専修学校，各種学校の卒業者や外国大学日本分校等の修了者など大学卒業資格を有していない者で令和５年３月までに 22 歳に達するもの」です。

これにより出願する場合は，事前に審査を行う必要がありますので，指定する期日までに下記「個別の入学資格審査について」に記載の書類を送付（書留速達郵便）してください。

なお，事前審査の手続を行う前に，必ず研究指導を希望する教員（研究指導教員となり得る教員）と連絡を取り，あらかじめ入学後の履修･研究内容などについて相談してください。

個別の入学資格審査について

提出期限	令和４年８月 19 日（金）
提出書類	・入学願書　・最終学校の卒業証明書及び成績証明書 ・志望理由書（大学院で学ぶ動機，理由） ・資格，免許等を証明するもの（写し） ・研究論文等（写し）
審査方法	書類審査により実施します。
審査結果の発表	令和４年９月２日（金）審査結果を文書で通知します。
書類送付先及び問い合わせ先	〒 891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町１番地 鹿屋体育大学教務課入試係 TEL 0994－46－4869　　FAX 0994－46－2533 封筒の表に「修士課程事前審査書類在中」と朱書してください。

出願資格に関する注意事項

(1)　社会人入試に出願できる者は，「大学を卒業した者（本学大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者を含む。）で，社会人としての経験を有し，体育学の分野に関心があり，明確な研究テーマを持ち，かつ十分な研究意欲のある者」とします。

(2)　現職教員入試に出願できる者は，「小学校，中学校，高等学校，特別支援学校及び教育関係機関に勤務（専任）し，所属する都道府県教育委員会又は政令指定都市教育委員会から承諾を受け，在職のまま入学しようとする者」とします。

なお，入学後は，「１年次においては，大学院での学業に専念し，必要な単位を修得する。また，２年次においては，定期的に通学して，残りの単位を修得するとともに修士論文作成のための指導を受けるもの」とします。

(3)　外国人留学生入試に出願できる者は，「外国籍を有している者」とします。

(4)　ＳＳに出願できる者は，「日本代表（外国人留学生入試受験者は，出身国代表）として国際大会で活躍している者で，かつ，①入学後も競技力向上を継続する意志のある者，又は②高度な指導知識や実践的能力を備えた指導者として，国際的な競技力向上に寄与する意欲のある者」とします。

(5)　ＳＣに出願できる者は，「各国代表の選手を指導した実績（当該国においてナショナルチームの指導者（監督，ヘッドコーチ及びアシスタントコーチなど））を有し，高度な指導知識や実践的能力を備えた指導者として，国際的な競技力向上に寄与する意欲のある者で，指導についての明確な研究テーマを持つ者」とします。

※ここでいうナショナルチームとは，フル代表やＡ代表のことを指し，ジュニアやＵ－18 等年齢別のカテゴリーは除きます。

なお，出願資格について不明な点は，令和４年８月 17 日（水）までに教務課入試係（TEL 0994-46-4869）へ問い合わせてください。

4　選抜日程

試験日時 ＼ 試験区分	令和４年 10 月 24 日（月）	
	９：30 ～ 11：00	11：30 ～
一般入試	論述試験	口述試験 外国語（英語・CASEC）※
社会人入試		
現職教員入試		口述試験
外国人留学生入試	論述試験	口述試験 外国語（英語・CASEC）※
上記の内，ＳＳ又はＳＣと認定された者		口述試験

※出願時に「外国語（英語）」において「CASEC」を選択した者のみ，口述試験終了後に外国語（英語・CASEC）を実施します。詳細は出願後に本学から送付する「受験者心得」にてお知らせします。

なお，新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，入学者選抜試験については，やむを得ず，試験期日等を変更する緊急措置を実施する場合があります。その場合は本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）で公表するとともに，出願者に対しても個別に通知いたします。

5　選抜方法

大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）の入学者選抜は，学力試験〔外国語（英語），筆記試験（論述試験），口述試験〕及びその他の提出書類等の結果を総合して選抜します。

合否判定の基本方針

【一般入試，社会人入試，外国人留学生入試】

1　外国語（英語）及び論述試験の合計得点の高い者から合格とします。
　なお，同得点の者が複数の場合には，口述試験の結果の順に判断します。

2　次の事項に該当する者については，不合格とします。
　ア 外国語（英語）及び論述試験の合計得点が 100 点未満の者
　イ 論述試験の評価が修学に耐えられないと判断された者
　ウ 口述試験の結果が「１」の者
　エ 本学が課す外国語（英語）の場合，その評価が修学に耐えられないと判断された者

【現職教員入試】

口述試験の結果，本学修士課程の修学に耐えうると判断された者を合格とします。

【一般入試，社会人入試，外国人留学生入試のうちＳＳ又はＳＣと認定された者】

1　口述試験の結果の高い者から合格とします。

2　次の事項に該当する者については，不合格とします。
　ア　口述試験の結果が「１」の者

学力試験

①　外国語（英語）（100 点満点で評価）※出願時に，以下の２項目からどちらか選択してください。

ア．出願時に提出した「TOEFL 又は TOEIC のスコア」による評価
・外国語（英語）は出願時に提出した「TOEFL 又は TOEIC のスコア」によって評価を行います。
・入学試験実施日から２年以内に受験した TOEFL 又は TOEIC（TOEIC-IP 含む。）のテストの結果を評価します。ただし，TOEFL-iBT は 24 点未満の者，TOEIC（TOEIC-IP 含む。）は 300 点未満の者は除きます。

イ．入学試験実施日に実施する「CASEC」による評価
・入学試験実施日に実施する「CASEC」によって評価を行います。
※「CASEC」の受験にあたり，受験料（1,430 円）が必要となります。支払い方法等の詳細については，出願後に本学から送付する「受験者心得」にてお知らせします。

②　筆記試験（論述試験）（100 点満点で評価）
・体育学全般にわたる問題を出題します。
・一般入試では，共通問題１問，選択問題１問（３問の中から１問を自由に選択する。）の計２問，社会人入試及び外国人留学生入試では，共通問題と選択問題の中から１問を解答することとします。
　なお，外国人留学生入試についても日本語による出題，解答となります。

③　口述試験（現職教員入試以外は５段階で評価，現職教員入試は「可」「否」で評価）
・専門的知識，研究計画及び運動歴等について試問します。
・質疑応答形式で実施します。
・受験者１人当たりの時間は，おおむね 15 分とします。

6　出願書類等の提出先及び照会先

〒 891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町１番地　鹿屋体育大学教務課入試係
ＴＥＬ　0994-46-4869
E-mail　nyushi@nifs-k.ac.jp

7　出願方法

出願書類等は一括し，本学所定の出願用封筒を用いて必ず書留速達にて郵送してください。直接持参しても差し支えありません。

なお，出願書類に不備がある場合は，受理しないことがありますので十分注意してください。

記入事項で該当しないものについても，必ず「該当なし」と記入してください。

また，出願書類受付後の記載内容の変更は認めません。

出願書類等	提出該当者	摘　　要
入学願書	全　員	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。 なお，大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例を希望する者(23 頁を参照)は，入学願書の所定欄を〇で囲んでください。
受験票・写真票	〃	本学所定の様式により必要事項を記入の上，写真（上半身，無帽，正面向きのもので，縦４㎝×横３㎝，最近３ヶ月以内に撮ったもの。カラー・白黒は問わない。裏面に氏名を記載のこと。）を貼付してください。
卒業(見込)証明書	大学卒業(見込)者	出身大学（又は最終学校）の長又は学部長が作成したものを提出してください。
成績証明書 (要厳封)	〃	出身大学（又は最終学校）の長又は学部長が作成し，厳封したものを提出してください。
研究計画書	全　員	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。 また，**研究指導を希望する教員とあらかじめ履修・研究内容等について相談し，指導の同意を得た上で，提出してください。**
体育・スポーツ歴調書	〃	本学所定の様式により，大学入学以降の競技歴，指導歴，研究歴等を記入の上，提出してください。 ・ＳＳとして出願する者は，国際大会での競技成績・記録を証明する資料を必ず添付してください。 ・ＳＣとして出願する者は，各国代表選手を指導したことを証明する資料を必ず添付してください。
TOEFL は受験者控えスコア票(写真付き) TOEIC は公式認定証 TOEIC － IP はスコアレポート	全　員 (ただし，学力試験：外国語（英語）において「CASEC」で出願する者，現職教員入試で出願する者及びＳＳ又はＳＣと認定された者は除く。)	出願書類等については，原本を提出してください。(コピー不可) なお，提出された公式認定証等の書類は出願資格確認後，返却します。 また，入学試験実施日から過去２年以内に受験した書類を提出してください。
入学検定料 (30,000 円)	全　員 (ただし，国費外国人留学生は除く。)	同封している払込取扱票に必要事項を記入（12 頁を参照）して，令和４年９月 14 日（水）以降に郵便局の受付窓口で払込んでください。ＡＴＭやインターネットバンキングからの払込みはしないでください。 なお，払込手数料は，依頼人負担となります。 払込取扱票等の※欄には，志願者本人の住所・氏名・電話番号等を必ず記入してください。 入学検定料を払い込んだ後，振替払込受付証明書（お客さま用）に受付局日附印があることを確認し，本学所定の台紙に貼付して出願してください。 また，下記の場合以外は，既納の検定料はいかなる理由があっても返還しません。 ア　出願書類等を提出したが，受理されなかった場合 該当者に連絡しますので，所定の期日までに手続を行ってください。 イ　検定料を振り込み後，本学に出願しなかった場合 ウ　検定料を誤って二重に振り込んだ場合及び所定の金額より多く振り込んだ場合 上記イ及びウについては，本人の申し出により納入された検定料又は超過分を返還することができますので，必ず令和４年 10 月 21 日(金)までに教務課入試係(電話 0994-46-4869)へ連絡してください。
返信用封筒	全　員	受験票及び受験者心得等を送付する際に使用しますので，本要項に添付の封筒に郵便番号･住所･氏名を記入し，郵便切手（400 円※）を貼付して提出してください。また，封筒に記載の「殿」は消さないようにしてください。 ※送付先が外国の場合は，必ず事前に教務課入試係へお問い合わせください。

【該当者のみ必要】

出願書類等	提出該当者	摘　　要
受験承諾書	大学院在学者	現に他の大学院に在学している者は，本学大学院の受験についての当該在学大学の学長（研究科長）の受験承諾書（様式任意，要公印）を提出してください。
受験及び入学に関する承諾書	社会人	現に学校，官公庁又は民間企業等に在職している者で本学大学院に入学しようとするものは，本学大学院への受験及び入学に関する所属長の承諾書（様式任意，要公印）を提出してください。
	現職教員入試出願者	所属する都道府県又は政令指定都市の教育委員会の教育長の承諾書（様式任意，要公印）を提出してください。
住民票	日本に在住している外国人	市区町村長の交付する住民票（在留期間，在留資格を明記したもの。）を提出してください。 また，大学院入学の際には「出入国管理及び難民認定法（昭和 26 年政令第 319 号）」による大学院入学に支障のない在留資格を必要とします。
パスポートの写し	日本に在住していない外国人	パスポートの本人の氏名・国籍・顔写真のわかるページのコピーを提出してください。
研究歴証明書	出願資格⑶（注１）該当者	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。
教育職員免許状授与証明書	出願資格⑻（注２）該当者	免許状を授与された都道府県教育委員会が作成したものを提出してください。
志望理由書	出願資格⑽（注３）該当者	本学所定の様式に「大学院で学ぶ動機，理由」（800 字以上 1,200 字以内）を記入し，提出してください。
競技活動計画書・指導活動計画書	SS 認定希望者	本学所定の様式に審査を希望する出願資格（①又は②）（3 頁「出願資格に関する注意事項⑷」を参照）についての必要事項を記入の上，提出してください。
指導活動計画書	SC 認定希望者	本学所定の様式に「入学後及び修了後の指導計画」を記入の上，提出してください。

（注）日本語以外で書かれている書類については，必ず日本語の訳文を添付してください。

8　出願期間

令和４年９月 21 日（水）～ ９月 27 日（火）とします。

①　直接持参する場合の受付時間は 8 時 30 分から 17 時 15 分までとします。
　　ただし，土曜日，日曜日及び国民の祝日（振替休日を含む。）は受付を行いません。

②　郵送の場合は９月 27 日（火）の 17 時 15 分必着とします。

（注）出願期間後は一切受理しませんので，郵送による場合は郵送期間を十分に考慮して送付してください。

9　受験票等の送付

受験票，受験者心得及びその他の書類が令和４年 10 月 17 日（月）までに到着しない場合は，必ず教務課入試係に電話で照会してください。

10　試験場

鹿屋体育大学 白水キャンパス

所在地：鹿児島県鹿屋市白水町１番地　TEL 0994-46-4869

※ 試験場については，10，11 頁の位置図等を参照してください。

11　合格者の発表

令和４年 10 月 28 日（金）10 時

本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）上で，「合格者受験番号一覧表」を発表するとともに，合格者には合格通知書及び関係書類を同日付で送付しますので，必ず確認してください。

なお，電話等による合否の問い合わせには，一切応じません。

12　回答書の提出

合格者には，合格通知書とともに「回答書」を送付しますので，令和４年 11 月 14 日（月）までに必ず提出してください。

13　入学手続・入学料等

合格者には，入学手続書類を送付しますので（令和５年１月中旬），下記⑴入学手続期間内に入学手続を完了してください。入学手続書類は郵送となるため，転居された方は変更後の住所をお知らせください。

なお，入学手続期間内に入学手続を完了しないときは，本学の大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）入試合格者としての権利が消滅するので注意してください。

⑴　入学手続期間　令和５年３月 15 日（水）～３月 22 日（水）とします。

①　直接持参する場合の受付時間は，８時 30 分から 17 時 15 分までとします。
ただし，土曜日，日曜日及び国民の祝日（振替休日含む。）は受付を行いません。

②　郵送の場合は３月 22 日（水）17 時 15 分必着とします。
（注）　入学手続期間後は一切受理しませんので，郵送による場合は郵送期間を十分に考慮して送付してください。

⑵　提出書類等

①　本学大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）入試受験票
②　誓約書
③　写真　１枚（縦４㎝×横３㎝）
④　卒業（修了）証明書（入学手続時に提出できない者は，後日速やかに提出すること。）
⑤　その他の書類等（「入学手続等に関する手引き」送付時に通知する。）

⑶　入学料等学生納付金

①　入学料　282,000 円（予定額）
②　授業料　・前期分　267,900 円（　〃　）
　　・年　額　535,800 円（　〃　）

ア　入学料・授業料については，予定額をお知らせしています。改定があった場合には，随時お知らせします。
イ　在学中に授業料の改定が行われた場合は，改定時から新授業料が適用されます。

③　諸経費
学生教育研究災害傷害保険（通学中等傷害危険担保特約付）料（２年間）1,750 円
学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険料（２年間）680 円
鹿屋体育大学厚生会入会費 2,000 円（本学出身者は不要）

14　第２次募集

入学定員に欠員が生じた場合は，下記の日程により第２次募集を行う場合があります。

第２次募集実施の有無については，令和４年 12 月１日（木）以降に本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）で情報提供を行います。

出　願　期　間	令和５年２月 13 日（月）～２月 16 日（木）
選　抜　日　程	令和５年３月　７日（火）
合格者発表日	令和５年３月 13 日（月）
入学手続期間	令和５年３月 15 日（水）～３月 22 日（水）

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，入学者選抜試験については，やむを得ず，試験期日等を変更する緊急措置を実施する場合があります。
その場合は本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）で公表するとともに，出願者に対しても個別に通知いたします。

15　指導教員及び副指導教員

本研究科体育学専攻（修士課程）では，入学後に指導教員（１人）と副指導教員（２人以内）の指導の下で研究を行うこととなります。出願に際して，「研究テーマ」及び「研究計画」に基づき，指導教員として研究指導を受けることを希望する教員（研究指導教員となり得る教員）を，15 ～ 17 頁の「３　体育学研究科体育学専攻（修士課程）担当教員一覧」に記載されている①研究指導担当教員及び 20 頁の【連携大学院】①研究指導担当教員の中から選ぶ必要があります。

なお，出願の手続を行う前に，必ず研究指導を希望する教員と連絡を取り，あらかじめ入学後の履修・研究内容などについて相談を行ってください。教員の連絡先については，教務課入試係へ照会してください。

また，副指導教員については，入学後に指導教員の指導の下に研究科担当教員の中から選ぶことになります。

16　障害のある者等の事前相談

障害（学校教育法施行令第 22 条の３に定める障害の程度）のある者等で，受験上及び修学上特別な配慮を必要とするものは，出願に先立ち，令和４年８月 19 日（金）までに，あらかじめ本学に電話で相談してください。

17　その他

⑴　入学者選抜に関し，不正な行為又は虚偽の事実があった場合は，合格を取り消すことがあります。
⑵　出願書類（外国語に関する公式認定証等の書類を除く。）は返却しません。
⑶　受験についての詳細は，出願書類を提出した者に送付する「受験者心得」を参照してください。
⑷　試験開始時刻（口述試験及び外国語試験は集合時刻）に 30 分を超えて遅刻した者は，その科目等の受験は認めません。
⑸　独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律に基づき，個人情報（出願書類への記載内容及び試験成績）については，入学者選抜に係る業務（追跡調査を含む。）及び修学指導に使用します。また，入学料・授業料免除（猶予）及び奨学金を申請した者にあっては，選考資料として使用します。
⑹　学生募集要項に関し，不明な点や質問がある場合は，下記の問い合わせ先に照会してください。
なお，電話による問い合わせは，原則として志願者本人が行ってください。

◆問い合わせ先　〒 891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町１番地
鹿屋体育大学教務課入試係
ＴＥＬ 0994-46-4869
ＦＡＸ 0994-46-2533
E-mail nyushi@nifs-k.ac.jp

◆入試情報の提供
本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）で，入試情報等を提供しています。
なお，ホームページ上で，「合格者受験番号一覧表」を掲載しますが，必ず合格通知書で確認してください。

◆本人に開示する個人の入試情報の請求方法
本人に開示する入試情報は，試験成績です。
申込期間：令和５年５月１日から６月30日まで（土曜・日曜及び国民の祝日（振替休日を含む。）を除く。）
申込方法：受験者本人が来学の上，申し込んでください。
なお，その際に受験票又は身分を証明できるものと返信用封筒（長形３号：受験者本人の郵便番号・住所・氏名を記入し，404 円切手を貼付したもの。）を持参してください。
また，来学することが困難な者で，本人である確認が取れた受験者については，郵送等による申込みを受け付けます。（詳細については，本学ホームページで確認してください。）

※郵便料金の変更があった場合は，変更後の料金を適用します。

18　福利厚生等

◆福利厚生

⑴　学生宿舎
学生に良好な勉学と生活の環境を提供し，共同生活を通じて人間形成を図るため，緑に囲まれた大学敷地内の一画に学部学生・大学院生兼用の学生宿舎を設置しています。

宿舎には，居室（個室）のほかに，補食談話室・浴室などの共用施設も完備しています。
宿舎の入居定員は，350 人（うち女子 70 人）ですが，宿舎には希望者の全員は入居できません。選考は，本学選考規定に基づく家計所得により選考の上，入居者を決定しています。
経費は，寄宿料月額 4,300 円のほかに光熱水料等の費用（令和４年度実績 9,500 円）が必要です。
なお，学生宿舎入居手続等については，「入学手続等に関する手引き」送付時に通知しますので，参照してください。

(2) 職員宿舎
本学大学院生については，本学の職員宿舎への入居が可能となっております。職員宿舎への入居を希望される場合は下記の問い合わせ先に連絡してください。

◆問い合わせ先	鹿屋体育大学施設課計画係 ＴＥＬ 0994-46-4852 E-mail sisetu@nifs-k.ac.jp

(3) アパート等
アパートは地域，部屋の設備等により異なりますが，標準的な家賃は次に挙げるとおりです。

種 類	部屋の広さ	家賃（月額）
アパート（バス・トイレ付）	６畳～８畳	25,000 円～ 40,000 円程度

(4) その他
大学会館（白水キャンパス）には，食堂，ギャラリー，理容室，売店及びＡＴＭが置かれています。

◆入学料免除・入学料徴収猶予及び授業料免除制度

(1) 入学料免除及び入学料徴収猶予
次に該当する者は，願い出により入学料の徴収免除あるいは徴収が猶予されることがあります。
なお，申請手続等については，「入学手続等に関する手引き」送付時に通知しますので参照してください。
① 本学大学院に入学する者であって経済的理由により納付が著しく困難であり，かつ，学業優秀と認められる者
② 入学前１年以内において，入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し，又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等災害を受けたことにより，入学料の納付が著しく困難であると認められる者

(2) 授業料免除
次に該当する者は，願い出により授業料の免除が認められることがあります。
なお，申請手続等については，「入学手続等に関する手引き」送付時に通知しますので参照してください。
① 経済的理由により納付が困難であり，かつ，学業優秀と認められる者
② 入学前１年以内において，学資負担者が死亡し，又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等災害を受けた者
また，別途，「入学試験の成績優秀者」を対象とした入学料特別免除制度を設けています。

◆災害補償制度

学生が教育研究活動中において受けたケガ等の災害事故に対して，補償する制度として「学生教育研究災害傷害保険」（２年間）や，他人に怪我を負わせたなどの賠償責任事故に対して補償する制度として「学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険」（2年間）が設けられており，全員に加入していただいています。（保険料については，７頁の「13 入学手続・入学料等」(3)③ 諸経費を参照してください。）
そのほか，「国立大学法人学生総合補償プラン」「学研災付帯学生生活総合保険」（任意加入）があります。

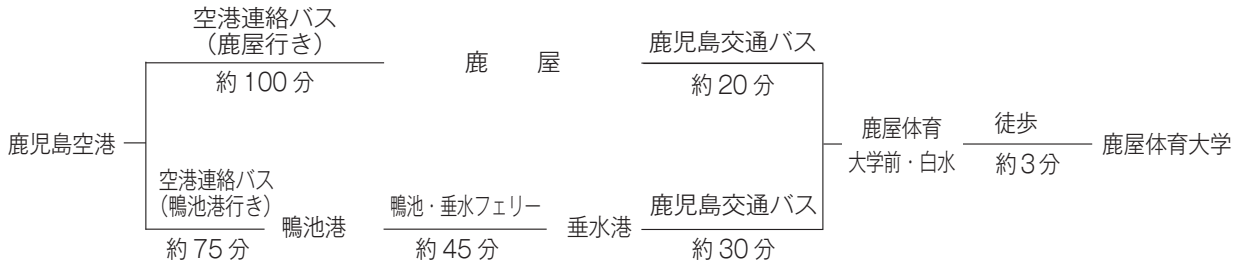
◆奨学金制度

(1) 日本学生支援機構奨学金
学業，人物ともに優秀で，学費の負担が困難であると認められる者に対して，奨学金を貸与しています。
大学院生（修士課程）の貸与額は，第一種が月額５万円又は８万８千円（令和４年４月入学生），第二種が月額５万円・８万円・10 万円・13 万円・15 万円からの選択型となっています。
なお，奨学生採用については，日本学生支援機構から募集があった際に，掲示にて通知します。

(2) その他の奨学金
地方公共団体，民間の育英奨学事業団体等の奨学金も扱っています。

◆本学までの主な交通経路

1　空の便



鹿児島空港からの経路

① 鹿児島空港から鹿屋市街地まで空港連絡バス（「鹿屋（かのや）・東笠之原（ひがしかさのはら）」行きの1系統のみ）が運行していますので，乗車し，「鹿屋」で下車してください。　【所要時間　約100分】

「鹿屋」からは「垂水（たるみず）」，「垂水港」又は「中央病院」行きのバスに乗り「鹿屋体育大学前・白水（しろみず）」で下車してください。　【所要時間　約20分】

② 鹿児島空港から鹿児島市内行きの空港連絡バスが出ていますが，乗車前に行き先が「鴨池港（かもいけ）」行きであることを確認の上乗車し，終点の「鴨池港」で下車してください。

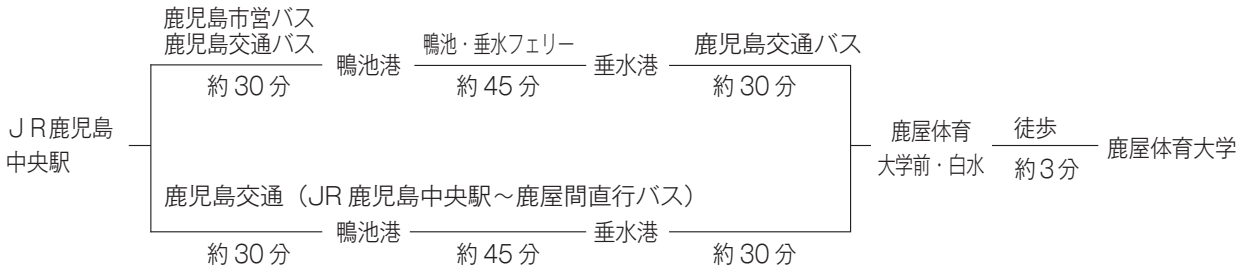
【所要時間　約75分】

下車した所が鴨池・垂水フェリー発着所となっていますので，そこから「垂水港」行きフェリーに乗船してください。　【所要時間　約45分】

垂水港からは鹿児島交通バスが接続していますので，「志布志（しぶし）」又は「東笠之原」行きに乗車し，「鹿屋体育大学前・白水」で下車してください。　【所要時間　約30分】

なお，タクシーを利用した場合，垂水港から本学までの所要時間は約30分です。

2　陸の便



ＪＲ鹿児島中央駅からの経路

① JR鹿児島中央駅前から鹿児島市営バス又は鹿児島交通バスの「鴨池港」行きに乗車し，終点の「鴨池港」で下車してください。　【所要時間　約30分】

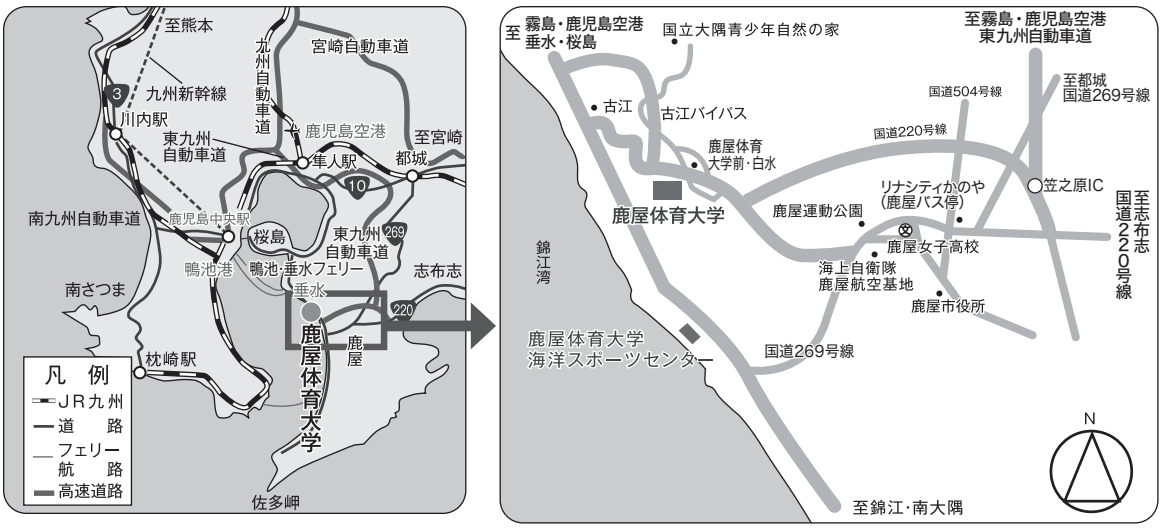
タクシーを利用した場合，JR鹿児島中央駅から鴨池港までの所要時間は約20分です。

なお，鴨池港（鴨池・垂水フェリー発着所）から本学までの経路は，「鹿児島空港からの経路」の②と同じです。

② JR鹿児島中央駅前から鹿児島交通のJR鹿児島中央駅～鹿屋間直行バスに乗車し，「鹿屋体育大学前・白水」で下車してください。　【所要時間　約105分】

（注）交通経路によっては，便数が限られていますので，バス等の運行状況（時刻表等）を事前に確認してください。

◆鹿屋体育大学位置図


至熊本
九州新幹線
川内駅
東九州自動車道
九州自動車道
宮崎自動車道
鹿児島空港
隼人駅
至宮崎
都城
南九州自動車道
鹿児島中央駅
桜島
東九州自動車道
鴨池港
鴨池
垂水フェリー
垂水
志布志
南さつま
鹿屋
鹿屋体育大学
枕崎駅
佐多岬
凡　例
JR九州
道　路
フェリー航路
高速道路
至霧島・鹿児島空港
垂水・桜島
国立大隅青少年自然の家
至霧島・鹿児島空港
東九州自動車道
古江
古江バイパス
国道504号線
至都城
国道269号線
国道220号線
鹿屋体育
大学前・白水
鹿屋体育大学
鹿屋運動公園
リナシティかのや
(鹿屋バス停)
笠之原IC
至志布志
国道220号線
鹿屋女子高校
海上自衛隊
鹿屋航空基地
鹿屋市役所
錦江湾
鹿屋体育大学
海洋スポーツセンター
国道269号線
N
至錦江・南大隅

◆入学検定料の払込取扱票等の記入方法

（注）入学検定料の払込みは，令和４年９月14日（水）以降に、郵便局の受付窓口で払い込んでください。
　　ＡＴＭやインターネットバンキングからの払込みはしないでください。

各自保管

払込みが済んだら，この部分を本学所定の台紙に貼付し，提出してください。

払　込　取　扱　票

00　福岡

口座記号番号	金額	千	百	十	万	千	百	十	円
01740－4－　52728					3	0	0	0	0

加入者名　国立大学法人 鹿屋体育大学　　料金　　備考

ご依頼人・通信欄

※該当のいずれかを○で囲んでください。
- ・大学院体育学研究科体育学専攻　修士課程
- ・大学院体育学研究科体育学専攻　博士後期課程
- ・大学院体育学研究科共同専攻　修士課程
- ・大学院体育学研究科共同専攻　後期３年の課程のみの博士課程

おところ

おなまえ（フリガナ）

電話番号　－　－

日附印

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）（承認番号福第10288号）

これより下部には何も記入しないでください。

切り取らないでお出しください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	01740－4－52728
加入者名	国立大学法人 鹿屋体育大学
金額	千 百 十 万 千 百 十 円　￥30000
ご依頼人	おなまえ ※　様
料金	（消費税込み）円
備考	

日附印

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

この受領証は、大切に保管してください。

振替払込受付証明書（お客さま用）
（ご依頼人⇒郵便局・ゆうちょ銀行⇒ご依頼人）

口座記号番号	01740－4－52728
加入者名	国立大学法人 鹿屋体育大学
払込金額	千 百 十 万 千 百 十 円　￥30000
志願課程名	※（　　）課程
ご依頼人住所氏名	※おところ・おなまえ

日附印

（承認番号福証第933号）

志願者の住所，氏名，電話番号等を記入してください。

志願者の氏名を記入してください。

志願者の志願課程，住所及び氏名を記入してください。

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻
（修士課程）入学案内

1　体育学研究科体育学専攻（修士課程）の概要

⑴　体育学研究科体育学専攻（修士課程）の目的

本研究科体育学専攻（修士課程）は，学部での教育研究の成果を基盤として，スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野における専門的知識・技術の教授研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力を有する研究者や指導者の養成を目的とします。

さらに，社会人の再教育，海外の留学生の受入れによる教育研究の国際交流を図り，これらを通じて国内外の体育・スポーツ情報のネットワーク構築をめざします。

⑵　専攻名及び定員

専 攻	入学定員	収容定員
体 育 学	15 人	30 人

⑶　学期及び授業期間

学年を前期・後期に区分し，各授業科目は学期ごとに完結するよう開講されています。

・前期　　4月1日から9月30日まで

・後期　　10月1日から3月31日まで

⑷　教育課程

各授業科目を共通科目，基礎科目，応用科目及び課題研究科目に分けて編成するものとします。

⑸　学位論文の作成及び審査

指導教員の指導を受けて作成し，研究科委員会が学位論文の審査を行います。

なお，特定の課題についての研究成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができます。

⑹　課程修了及び学位の授与

課程を修了するための要件は，標準修業年限以上在学し，所定の単位を30単位以上修得し，必要な研究指導を受け，学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することが条件です。

なお，課程の修了及び学位授与の可否は，学位論文審査委員会の報告に基づき研究科委員会が審議決定し，学長が認定することとなっています。

⑺　学位

本研究科体育学専攻（修士課程）を修了した者には，「修士（体育学）」の学位を授与します。

⑻　教育職員免許状

教育職員免許法に定める中学校及び高等学校教諭の一種免許状（保健体育）の所要資格を有する者が教育職員免許状取得に必要な単位（24単位以上）を修得し，かつ本研究科体育学専攻（修士課程）を修了したときには，申請に基づき中学校及び高等学校教諭の専修免許状（保健体育）の資格が得られます。

2　熊本大学・宮崎大学との連携大学院について

体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムでは，我が国で唯一の国立4年制体育大学である鹿屋体育大学大学院の体育学研究科（修士課程）を中心として，熊本大学及び宮崎大学と連携・協力して本学の修士課程の教育・研究指導を行うことで，複合領域である体育学・スポーツ科学についての専門的知識・技術の教授研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な能力を有する研究者や指導者を養成し，鹿屋体育大学大学院の修士（体育学）の学位取得を目指します。

詳細につきましては，本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/entrance/selective/graduate-level-course/renkei-m.html）をご参照ください。

３　体育学研究科体育学専攻（修士課程）担当教員一覧（令和４年６月現在）

①　研究指導担当教員（指導教員又は副指導教員となり得る教員）

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	瓜田吉久（教授）	・スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（フィールド））	陸上競技における効果的な指導方法について研究を推進している。また，陸上競技を中心に各種目に必要な体力獲得のためのトレーニング方法並びに手段について研究を行っている。
	小澤雄二（教授）	・武道指導論特講 ・武道指導論特講演習（柔道） ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	１）　安全で効果的な武道の指導のための用具の研究・開発 ２）　柔道の授業のための実践的指導プログラムの研究・開発 ３）　柔道選手の競技力向上に関する研究 以上の３つの方向から主に研究を行っている。
	北村尚浩（教授）	・スポーツ社会学特講 ・スポーツ社会学特講演習 ・スポーツ社会学特講【夜間】 ・スポーツ社会学特講演習【夜間】 ・生涯スポーツ学特講 ・生涯スポーツ学特講演習 ・生涯スポーツ学特講【夜間】 ・生涯スポーツ学特講演習【夜間】 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	スポーツを中心としたレジャー・レクリエーションの社会科学的研究を主要研究領域とし，生涯にわたるスポーツ・ライフスタイル形成の視点から，特に学校での教科体育や運動部活動をはじめ，スポーツ少年団や地域スポーツクラブなどにおける青少年スポーツのあり方や，レジャー・レクリエーションの社会的意義について検討している。
	金高宏文（教授）	・スポーツコーチング学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	スポーツ運動における「技能の習得」や「動作の改善」時に生じる「コツ・カン」や「フォーム」の変化について調査・測定している。現在は，各スポーツ種目における初心・初級者のコツや技術，その指導・トレーニング方法を探求している。専門はスポーツ運動学及びトレーニング学で，スポーツバイオメカニクスと指導者育成・再研修のカリキュラム論についても取組んでいる。
	髙橋仁大（教授）	・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習 ・スポーツコーチング学特講演習（テニス） ・スポーツ科学リテラシー特講	スポーツにおける戦略・戦術分析のためのゲームパフォーマンス分析ならびに PerformanceAnalysis を行っている。特に映像を用いた分析ならびにフィードバック手法，またゲームパフォーマンス分析を基にしたゲームパフォーマンス評価に関する研究を進めている。これらの研究が実験室的研究で終わることなく，スポーツの実践場面に貢献できるような，フィールドでの実践的活動も重点的に行う。
	竹中健太郎（教授）	・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習 ・武道指導論特講演習（剣道） ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	我国発祥の伝統運動文化である武道（剣道）において，その競技性と文化性の共存に向けたコーチングの探求，構築を目指す研究を推進している。競技力向上の要因，あるいは技術習得の効率性についての実践的な検証と並行し，剣術が現代の剣道に見られる運動形態に発展する過程で伝承されてきた精神性を追求する。競技の発展と伝統文化の継承の二軸の視点から，後世への伝承の方法論について検討している。
	田巻弘之（教授）	・身体科学論特講 ・身体科学論特講演習（生体ダイナミクス） ・体力科学特講【夜間】 ・体力科学特講演習【夜間】 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	疲労及び筋持久力の改善に関する神経 - 筋系の制御機構や，運動刺激が筋・骨格系の組織細胞の形態や機能に及ぼす影響に関する領域をテーマとしている。また加齢や不動によって骨や骨格筋がどのように萎縮するのか，どのような運動・トレーニングで防止できるのか等について組織・細胞を各種顕微鏡で観察して解明しようとしている。
	中垣内真樹（教授）	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習（健康運動学） ・スポーツ科学リテラシー特講	中高齢者を対象として健康づくり，介護予防のための運動の実践方法やその効果について研究している。地域での効果的な運動の普及を目指して運動プログラムを作成し，実際に地域等で実践指導をしてその効果を検証しながら運動の有用性や意義を明らかにする。
	中村夏実（教授）	・スポーツコーチング学特講演習（海洋スポーツ） ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	海洋スポーツ種目（特にボート，カヌー）における水上パフォーマンスの評価方法や総合的な競技力の評価体系の確立に取り組みながら，国際的な競漕力の獲得を目指すユニバ世代の体力的・技術的目標の設定と目標達成のためのトレーニング方法を探求している。 一方で，海洋スポーツ全般の心身への健康増進効果のエビデンスの蓄積に取り組んでいる。
	藤井康成（教授）	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習（スポーツ・リハビリテーション医科学）	スポーツ医科学における整形外科的疾患の予防と運動療法について，特に肩・肘の上肢，膝・足の下肢関節のスポーツ障害を中心に，その病態や治療法，予防法に関して研究を行う。スポーツ選手の身体機能を評価するメディカルチェックを通して，体の柔軟性やアライメントの評価法から障害予防のためのトレーニング法などについても研究をすすめる。

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	堀内雅弘 （教授）	・スポーツ生理学特講 ・スポーツ生理学特講演習 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	専門領域は運動生理学（呼吸・中心循環、および末梢循環応答）、および環境生理学である。具体的には，運動時の呼吸循環応答のメカニズムを明らかにしようとしている。この要因解明のために，環境要因（低酸素・暑熱等）を負荷した状況での実験研究を行っている。さらに，これら環境要因が脳循環応答に及ぼす影響と認知機能の関連についても検討している。
	前田　明 （教授・副学長）	・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習 ・スポーツバイオメカニクス特講 ・スポーツバイオメカニクス特講演習 ・スポーツバイオメカニクス特講【夜間】 ・スポーツバイオメカニクス特講演習【夜間】 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	運動技術の習得を力学的に得るためにモーションキャプチャーシステム，ハイスピードカメラ，フォースプレート等を用いてバイオメカニクス的に動作を分析する。競技力向上に関するトレーニング効果をバイオメカニクス的見地から考察する。
	森　克己 （教授）	・スポーツ法・倫理特講 ・スポーツ法・倫理特講演習 ・スポーツ史・運動文化論特講【夜間】 ・スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】 ・スポーツ科学リテラシー特講	スポーツは「世界共通の人類の文化」（スポーツ基本法前文）である。また，「文化」とは，「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果」（広辞苑）のことである。日本で20数年前に学会が設立されて本格的に研究が開始されたスポーツ法学は従来日本の実定法学が対象としてこなかった「文化」を対象とする新しい法学であると認識されている。スポーツと法に関わる人類学的な問題について，その歴史的な背景を踏まえ，スポーツ法学的な手法を用いて考察している。
	森　司朗 （教授）	・スポーツ心理学特講 ・スポーツ心理学特講演習 ・スポーツ心理学特講【夜間】 ・スポーツ心理学特講演習【夜間】 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	１）　幼少年期の心身両面からの運動発達 ２）　運動認知メカニズムや運動学習のプロセスなどの理論的な研究及びメンタルトレーニングや認知トレーニングへの応用 ３）　コミュニティ心理学的アプローチを通して自閉症児の治療教育などの実践的研究 ４）　脳内神経連絡経路などの基礎研究 以上の４つの方向から主に研究を行っている。
	安田　修 （教授）	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習 （スポーツ・リハビリテーション医科学） ・健康教育学特講 ・健康教育学特講演習 ・スポーツ医科学特講 ・スポーツ医科学特講演習	ミトコンドリアは生体のエネルギーの殆ど全てを生産し，生体の活動性や老化を左右する重要な細胞内小器官である。運動や骨格筋量がミトコンドリア機能に与える影響に関しての生物化学的な研究に取り組んでいる。また骨格筋量が生体の心臓，腎臓の機能や老化に与える影響について血液パラメーターや分子生物学的手法を用いた研究を行っている。
	山田理恵 （教授）	・スポーツ史・運動文化論特講 ・スポーツ史・運動文化論特講演習 ・スポーツ史・運動文化論特講【夜間】 ・スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	日本とドイツの場合を中心に，固有の伝統的スポーツや身体運動をめぐる諸現象を比較・検討し，スポーツ文化の伝統性や特性などについて歴史的，社会学的，民俗学的考察を行っている。
	山本正嘉 （教授） ［令和５年３月末退職予定］	・トレーニング科学特講 ・トレーニング科学特講演習 （トレーニング科学） ・トレーニング科学特講【夜間】 ・トレーニング科学特講演習【夜間】 ・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツ科学リテラシー特講 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	スポーツパフォーマンスの制限要因となる瞬発力，持久力，疲労，回復能力などを改善するためのトレーニングやコンディショニング法に関する実践的な研究。各種スポーツにおける専門体力やパフォーマンスの測定と評価に関する研究。低酸素（高所）環境を利用したトレーニングの研究。登山やクライミングなど，アウトドアスポーツの運動生理とトレーニングに関する研究。
	髙井洋平 （准教授）	・トレーニング科学特講 ・トレーニング科学特講演習 （トレーニング科学） ・トレーニング科学特講【夜間】 ・トレーニング科学特講演習【夜間】 ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習 ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	発育期の子ども，高齢者およびスポーツ選手を対象に，身体組成，筋機能および運動能力におけるトレーナビリティに関する研究を，運動生理学的およびバイオメカニクス的手法を用いて行っている。
	中本浩揮 （准教授）	・トレーニング科学特講 ・トレーニング科学特講演習 （メンタルトレーニング論） ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	スポーツの熟達化をテーマとし，優れた競技者の視覚システムおよび予測能力と運動修正能力といった知覚・認知技能の特徴やその獲得方法について，心理物理学，生理心理学的手法を用いて研究を行っている。

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	沼尾成晴 （准教授）	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習 （健康運動学）	肥満や生活習慣病の危険因子を改善するための効果的な身体活動や運動方法の開発を目指し，呼気や血液指標(生化学指標，アディポカイン）などを用いて，急性運動や慢性運動のエネルギー代謝(糖代謝，脂質代謝）に及ぼす影響について応用的な研究を進めている。また，中高齢者に対する運動や身体活動を増加させるための方法，またその効果についても検討している。
	藤田英二 （准教授）	・運動処方論特講 ・運動処方論特講演習 ・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	アスレティックトレーナーの専門領域であるアスレティックトレーニング，および高齢者の健康づくりについて研究を行っている。アスレティックトレーニングでは，特にスポーツによる外傷および障害予防に関するフィジカルコンディショニングや，そのトレーニング法に関して取り組んでいる。高齢者の健康づくりでは，健常高齢者から低体力の虚弱者まで幅広い層を対象とした運動の手法とその効果について研究している。
	三浦健 （准教授）	・スポーツコーチング学特講演習 （バスケットボール）	球技スポーツにおける技術面，戦術面，試合の運営等に焦点を当て，実践活動に直接寄与する知見を，数値データや画像データを提示することにより，「実践事例研究論文」として作成する方法論を用いた研究を行っている。
	與谷謙吾 （准教授）	・身体科学論特講 ・身体科学論特講演習（身体機能論） ・体力科学特講【夜間】 ・体力科学特講演習【夜間】	外部刺激に対する身体の反応パフォーマンスについて，時間的側面（反応時間）から中枢（神経系）や末梢（筋系）の時間要素に区分して評価し，各系でのトレーナビリティー等について研究を行っている。
	イスラム モハモド モニルル （准教授）	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習 （ヘルスサイエンス）	1）わが国における地域在住の健康な高齢者から施設入所している高齢者までを対象に介入運動に関する研究を行っている。今後は発展途上国の高齢者の日常生活における身体活動量の測定とともにその人たちの身体活動量を高める方法に関する研究を行う予定である。 2）発展途上国の上水と下水問題解決法(雨水利用及びサニタリートイレ利用など）に関する研究を行っている。
	栫ちか子 （講師）	・コープ特講演習・実習	保健体育科教育学，舞踊教育学を専門分野とし，学校教育における体育・保健の授業づくりや学修成果・評価をテーマに，授業内容・学修過程・評価規準の設定の可視化を目的とした教材開発，授業改善に向けての授業実践等について，量的研究法と質的研究法を複合的に用いて研究を進めている。
	下川美佳 （講師）	・コーチング学特講【夜間】 ・コーチング学特講演習【夜間】	武道（剣道）における稽古やコーチング方法の探究をテーマとし，現場の日常にある様々な活動を対象とした研究を進めている。主に，技能の習得や動作の改善時に生じる運動意識や動作の変化について，あるいは，打突に伴って発生する音に関する調査・測定などを行い，暗黙知の可視化に取り組んでいる。
	永原隆 （講師）	・スポーツコーチング学特講演習 （陸上競技（トラック）） ・コーチング学特講【夜間】 ・コーチング学特講演習【夜間】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】	スポーツ科学を研究領域とし，競技力向上に有用となる知見を得るために研究を行っている。スプリント走学を専門とし，子供から高齢者，アスリートを対象として，スプリント走の機序，評価法，効果的なトレーニング手段の解明を進めている。また，研究に用いる器具やソフトウェアの開発を行っている。
	村田宗紀 （講師）	・スポーツバイオメカニクス特講 ・スポーツバイオメカニクス特講演習 ・スポーツバイオメカニクス特講【夜間】 ・スポーツバイオメカニクス特講演習【夜間】 ・身体科学論特講演習（体力科学） ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	力学的な観点から，競技力向上や合理的な動作の要因を理解することを目的とし，スポーツで観察される現象（身体動作や飛翔するボールなど）を逆運動学，逆動力学，コンピュータシミュレーションなどを用いて研究している。

②　授業担当教員（副指導教員となり得る教員）

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	関　朋昭 （教授）	・スポーツマネジメント論特講 ・スポーツマネジメント論特講演習 ・スポーツマネジメント論特講【夜間】 ・スポーツマネジメント論特講演習【夜間】	スポーツにおけるビジネス上の問題点，スポーツ組織（クラブ）が抱える課題をマネジメントの視点から研究している。特に学校部活動が主たる研究テーマとなっている。また人文社会科学の研究方法論をベースにしながら「スポーツとは何か」「スポーツの価値とは何か」という原理的な研究も行っている。
	濱田幸二 （教授）	・スポーツコーチング学特講演習（バレーボール）	バレーボールのゲーム分析，主として攻撃戦術のパターン化と守備戦術のシステム化のために，データ蓄積と解析を重ねている。この過程から戦術トレーニングの方法開発を進め，コーチング現場へのフィードバックと戦術構造から考えられるチームビルディングを検討している。
	前阪茂樹 （教授）	・武道指導論特講 ・武道指導論特講演習（剣道） ・武道論特講 ・武道論特講演習	武道（特に剣道）を単なる「競技」ではなく，「日本の伝統的運動文化」であるという視座にたち，武道について歴史性・文化性などを俯瞰し，指導論へと発展させていく。 特に， １．古伝書等に記述されている内容の吟味と現代的解釈。 ２．武道修錬の構造の理解と「師弟同行」の精神に基づく実践･検証。 などを検討・確認しながら，「修証一如」の修行論・指導論を展開する。
	前田博子 （教授） ［令和５年３月末退職予定］	・コミュニティ・スポーツ論特講 ・コミュニティ・スポーツ論特講演習 ・生涯スポーツ学特講 ・生涯スポーツ学特講演習 ・生涯スポーツ学特講【夜間】 ・生涯スポーツ学特講演習【夜間】	スポーツに関わるさまざまなトピックについて，社会学的手法を用いて研究を行っている。 主な題材として，①地域スポーツクラブのボランティアに関する研究，②フットボールの社会学的研究，③ジェンダー研究
	廣津匡隆 （准教授）	・ヘルスサイエンス特講 ・ヘルスサイエンス特講演習（スポーツ・リハビリテーション医科学） ・スポーツ医科学特講 ・スポーツ医科学特講演習 ・スポーツ科学リテラシー特講	整形外科的スポーツ傷害の発症予防と運動療法について，特に膝･足の下肢や肩･肘の上肢のスポーツ障害を中心に，その病態･予防法･治療法に関して研究を行う。各スポーツにおけるスポーツ傷害発症のメカニズムを解明し，メディカルチェックなどを通して個人の身体的特徴を評価することにより，障害予防のための最適なトレーニング法などについて研究を行う。
	松村勲 （准教授）	・スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（トラック）） ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	陸上競技の中長距離走を中心に，そのトレーニング方法や評価方法，ならびにコーチング方法について研究を進めている。また，スポーツ選手のコンディション評価ならびにコンディショニングについての研究も行っている。
	吉田剛一郎 （准教授）	・運動生化学・分子細胞生物学特講 ・運動生化学･分子細胞生物学特講演習 ・スポーツ栄養学特講 ・スポーツ栄養学特講演習 ・スポーツ科学ナレッジ･マネジメント演習	運動負荷にともなう生体内代謝変化について検討を行っている。栄養素の異化によるエネルギー産生および疲労をテーマとし，その一つとして脂肪酸代謝のコファクターであるカルニチンの末梢および中枢におけるはたらきを検討している。
	和田智仁 （准教授）	・スポーツバイオメカニクス特講 ・スポーツバイオメカニクス特講演習 ・スポーツバイオメカニクス特講【夜間】 ・スポーツバイオメカニクス特講演習【夜間】	スポーツにおける情報通信技術の活用をテーマとし，慣性センサ等のウェアラブルセンサを用いた動作分析やデータの可視化，スポーツ現場におけるタブレット活用，映像のフィードバック手法などの研究に取り組んでいる。
	幾留沙智 （講師）	・トレーニング科学特講 ・トレーニング科学特講演習（メンタルトレーニング論） ・身体教育特講Ｉ【KR】 ・身体教育特講演習Ｉ【KR】	パフォーマンス向上に関連する内容として，運動の素早い修正方略及び修正メカニズムの解明，練習の質を高める心理特性の解明に向けて実験法や質問紙調査法を用いて研究を行っている。またパフォーマンス発揮に関連する内容として，メンタルトレーニングの効果検証といった実践研究に取り組んでいる。
	小森大輔 （講師）	・スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（フィールド））	陸上競技における効果的な指導方法や跳躍種目で要求される体力要素について研究を進めている。 その中でも，リバウンドジャンプや立五段跳等のパフォーマンスと関係性のある能力を向上させるためのトレーニング方法について探求している。
	坂中美郷 （講師）	・スポーツコーチング学特講演習（バレーボール） ・スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	バレーボールにおけるパフォーマンスの向上を目的とした練習方法，コーチング方法，チームビルディングについて研究を行っている。また，選手個々人のパフォーマンスと，メンタルコンディションや身体コンディションとの関わりについて研究を進めている。

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	塩川勝行（講師）	・スポーツコーチング学特講演習（サッカー）	サッカーの育成年代における技術，戦術的なトレーニング，コーチングの研究及びサッカーにおけるフィジカルコンディションの検討を行っている。 また，試合の映像編集・分析を基に，攻撃戦術，守備戦術を考察し，競技力向上に結びつく実践的なトレーニング方法・コーチング法を検討している。
	隅野美砂輝（講師）	・スポーツマネジメント論特講 ・スポーツマネジメント論特講演習 ・スポーツマネジメント論特講【夜間】 ・スポーツマネジメント論特講演習【夜間】 ・スポーツ科学リテラシー特講	主にプロスポーツに関するスポーツ経営学やスポーツマーケティングについて研究している。その中でもスポーツファンを対象に消費者行動研究の手法を援用し，その行動の解明に取り組んでいる。
	藤井雅文（講師）	・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習	野球における以下の３つの項目についての評価方法，ならびに効果的なトレーニング方法およびコーチング方法について，実際の指導現場をフィールドにして研究を進めている。 １） 走攻守のパフォーマンスについて ２） 攻撃戦術および守備戦術について ３） 選手が向上するためのチーム（環境）作りについて
	村上俊祐（講師）	・スポーツコーチング学特講演習（テニス）	テニスにおけるサービスやグラウンドストロークの技術評価に取り組んでおり，そうした評価やニーズ分析に基づいたトレーニング実践による競技力向上の過程に関する研究を進めている。また，テニスの指導者講習を実践するとともに，より効果的な指導者養成プログラムについても検討している。
	山口大貴（講師）	・スポーツパフォーマンス学特講 ・スポーツパフォーマンス学特講演習	自転車競技を中心に，技能改善および競技力向上に関する実践研究に取組んでいる。具体的には，自転車競技者および指導者が有している運動技能や実践知を，簡易的な機材や映像等を用いて客観的に可視化し，その指標がどのように活用できるか検討している。その他，スポーツ用自転車を用いた安全な走行技能を修得するための指導法についても探求している。

③ 授業のみを担当する教員

区分	氏名（職名）	担当授業科目
授業のみを担当する教員	国重　徹（教授）	・スポーツ科学英語特講Ⅱ
	吉重美紀（教授）	・スポーツ科学英語特講Ⅱ
	David Elmes（准教授）	・スポーツ科学英語特講Ⅰ
	萬久博敏（准教授）	・スポーツコーチング学特講演習（水泳） ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】
	榮樂洋光（講師）	・スポーツコーチング学特講演習（海洋スポーツ）
	坂口俊哉（講師）	・野外教育論特講 ・野外教育論特講演習
	中村　勇（講師）	・スポーツ史・運動文化論特講 ・スポーツ史・運動文化論特講演習
	飯干　明（非常勤講師）	・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】
	石走知子（非常勤講師）	・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】
	川島克介（非常勤講師）	・キャリアデザイン演習
	真田　久（非常勤講師）	・スポーツ史・運動文化論特講【夜間】 ・スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】
	鈴木志保子（非常勤講師）	・スポーツ栄養学特講【夜間】 ・スポ－ツ栄養学特講演習【夜間】
	町田修一（非常勤講師）	・運動生化学・分子細胞生物学特講 ・運動生化学・分子細胞生物学特講演習
	宮地元彦（非常勤講師）	・生涯スポーツ学特講【夜間】 ・生涯スポーツ学特講演習【夜間】
	ヨーコ ゼッターランド（非常勤講師）	・インストラクションデザイン演習

【連携大学院】

① 研究指導担当教員（指導教員又は副指導教員となり得る教員）

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	井 福 裕 俊 （客員教授）	・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】 ・身体教育特講ⅡA【KR】 ・身体教育特講演習ⅡA【KR】	生理学・運動生理学の観点から，１）運動や自律神経刺激に対する心臓・循環システムの調節メカニズムの解明，２）運動や自律神経刺激に対するアスリートの循環応答パターンの特徴，および３）運動トレーニングに対する生体適応現象の解明を主として行っている。
	坂 本 将 基 （客員准教授）	・身体教育特講ⅡA【KR】 ・身体教育特講演習ⅡA【KR】	これまでは，ヒトが運動のイメージを行っているときの脳活動について，神経生理学的な手法を用いて調べてきた。現在は，主観的な身体の状態と客観的なそれとの間で誤差が生じる現象に着目し，この現象とアスリートの競技特性との関わりについて検討している。

② 授業担当教員（副指導教員となり得る教員）

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	塩 瀬 圭 佑 （客員准教授）	・身体教育特講Ⅰ【KR】 ・身体教育特講演習Ⅰ【KR】 ・身体教育特講ⅡB【KR】 ・身体教育特講演習ⅡB【KR】	健康や競技パフォーマンスに及ぼす運動と食事の影響について，特に下記のテーマで研究を行っている。１）競技力向上のための糖質摂取・貯蔵に関する研究，２）生体電気インピーダンス法による身体組成評価の研究，３）子どもの生活習慣と健康についての研究

【注意事項】

1．授業科目名に【夜間】と付記してある科目については，教育方法の特例として夜間（６～７限）に開講する科目

2．授業科目名に【KR】と付記してある科目については，体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムとして実施する科目

４　開設授業科目及び授業担当教員一覧（修士課程）（令和４年６月現在）

科目	科目群	領域	授業科目	担当教員	単位数 必修	単位数 選択	備考
共通	共通科目	共通	スポーツ科学リテラシー特講	各領域から２名程度	2		
			スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	各領域から２名程度	2		
			スポーツ科学セミナー	研究科教務委員会委員長	1		
			スポーツ科学英語特講Ⅰ	エルメス	1		
			スポーツ科学英語特講Ⅱ	吉重・国重		2	
			インストラクションデザイン演習	研究科教務委員会・ゼッターランド		1	
			キャリアデザイン演習	研究科教務委員会・川島		1	
			コープ特講演習・実習	研究科教務委員会・椿		2～4	
専門	基礎科目	スポーツ総合科学	ヘルスサイエンス特講	中垣内・藤井(康)・安田・イスラム・廣津・沼尾		2	
			健康教育学特講	安田		2	西暦偶数年度開講
			運動処方論特講	藤田		2	
			トレーニング科学特講	髙井・山本（正）・中本・幾留		2	
			スポーツコーチング学特講	金髙・（　　）		2	
			武道指導論特講	前阪・小澤		2	
			スポーツパフォーマンス学特講	髙橋・金髙・山本(正)・竹中・藤井(雅)・山口・前田(明)		2	
			トレーニング科学特講【夜間】	髙井・山本（正）		2	
			コーチング学特講【夜間】	永原・下川		2	
		スポーツ文化・社会科学	スポーツ史・運動文化論特講	山田・中村（勇）		2	
			武道論特講	前阪		2	
			スポーツ法・倫理特講	森（克）		2	
			生涯スポーツ学特講	前田（博）・北村		2	
			野外教育論特講	坂口		2	
			スポーツ社会学特講	北村		2	
			コミュニティ・スポーツ論特講	前田（博）		2	
			スポーツマネジメント論特講	関・隅野		2	
			スポーツ史・運動文化論特講【夜間】	山田・森（克）・真田		2	
			生涯スポーツ学特講【夜間】	前田（博）・北村・宮地		2	
			スポーツ社会学特講【夜間】	北村		2	
			スポーツマネジメント論特講【夜間】	関・隅野		2	
		スポーツ生命科学	スポーツ心理学特講	森（司）		2	
			スポーツ医科学特講	安田・廣津		2	
			スポーツ生理学特講	堀内		2	
			身体科学論特講	田巻・奥谷		2	
			スポーツバイオメカニクス特講	村田・和田・前田（明）		2	
			運動生化学・分子細胞生物学特講	吉田・町田		2	
			スポーツ栄養学特講	吉田・（　　）		2	
			スポーツ心理学特講【夜間】	森（司）		2	
			体力科学特講【夜間】	田巻・奥谷		2	
			スポーツバイオメカニクス特講【夜間】	村田・和田・前田（明）		2	
			スポーツ栄養学特講【夜間】	鈴木		2	
			身体教育特講Ⅰ【KR】	連携大学院担当教員		2	
			身体教育特講ⅡA【KR】	井福・坂本		2	
			身体教育特講ⅡB【KR】	塩瀬		2	
	応用科目	スポーツ総合科学	ヘルスサイエンス特講演習（健康運動学）	中垣内・沼尾		2	
			ヘルスサイエンス特講演習（スポーツ・リハビリテーション医科学）	廣津・藤井(康)・安田		2	
			ヘルスサイエンス特講演習（ヘルスサイエンス）	イスラム		2	
			健康教育学特講演習	安田		2	西暦偶数年度開講
			運動処方論特講演習	藤田		2	
			トレーニング科学特講演習（メンタルトレーニング論）	中本・幾留		2	
			トレーニング科学特講演習（トレーニング科学）	髙井・山本（正）		2	
			スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（トラック））	松村・永原		2	
			スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（フィールド））	瓜田・小森		2	
			スポーツコーチング学特講演習（水泳）	萬久		2	
			スポーツコーチング学特講演習（体操競技）	（　　）		2	
			スポーツコーチング学特講演習（サッカー）	塩川		2	
			スポーツコーチング学特講演習（バスケットボール）	三浦・（　　）		2	
			スポーツコーチング学特講演習（テニス）	髙橋・村上		2	
			スポーツコーチング学特講演習（バレーボール）	濱田（幸）・坂中		2	
			スポーツコーチング学特講演習（海洋スポーツ）	中村（夏）・榮樂		2	
			武道指導論特講演習（剣道）	前阪・竹中		2	
			武道指導論特講演習（柔道）	小澤		2	
			スポーツパフォーマンス学特講演習	髙橋・金髙・竹中・藤井(雅)・山口・前田(明)		2	
			トレーニング科学特講演習【夜間】	髙井・山本（正）		2	
			コーチング学特講演習【夜間】	永原・下川		2	
		スポーツ文化・社会科学	スポーツ史・運動文化論特講演習	山田・中村（勇）		2	
			武道論特講演習	前阪		2	
			スポーツ法・倫理特講演習	森（克）		2	
			生涯スポーツ学特講演習	前田（博）・北村		2	
			野外教育論特講演習	坂口		2	
			スポーツ社会学特講演習	北村		2	
			コミュニティ・スポーツ論特講演習	前田（博）		2	
			スポーツマネジメント論特講演習	関・隅野		2	
			スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】	山田・森（克）・真田		2	
			生涯スポーツ学特講演習【夜間】	前田（博）・北村・宮地		2	
			スポーツ社会学特講演習【夜間】	北村		2	
			スポーツマネジメント論特講演習【夜間】	関・隅野		2	
		スポーツ生命科学	スポーツ心理学特講演習	森（司）		2	
			スポーツ医科学特講演習	安田・廣津		2	
			スポーツ生理学特講演習	堀内		2	
			身体科学論特講演習（体力科学）	村田		2	
			身体科学論特講演習（生体ダイナミクス）	田巻		2	
			身体科学論特講演習（身体機能論）	奥谷		2	
			スポーツバイオメカニクス特講演習	村田・和田・前田（明）		2	
			運動生化学・分子細胞生物学特講演習	吉田・町田		2	
			スポーツ栄養学特講演習	吉田・（　　）		2	
			スポーツ心理学特講演習【夜間】	森（司）		2	
			体力科学特講演習【夜間】	田巻・奥谷		2	
			スポーツバイオメカニクス特講演習【夜間】	村田・和田・前田（明）		2	
			スポーツ栄養学特講演習【夜間】	鈴木		2	
			身体教育特講演習Ⅰ【KR】	連携大学院担当教員		2	
			身体教育特講演習ⅡA【KR】	井福・坂本		2	
			身体教育特講演習ⅡB【KR】	塩瀬		2	
課題研究	課題研究科目	課題研究	課題研究		4		

【注意事項】１．授業科目名に【夜間】と付記してある科目については，教育方法の特例として夜間（６～７限）に開講する。
２．授業科目名に【KR】と付記してある科目については，連携大学院開設科目として集中講義等で開講する。

授業科目開設表（修士課程）（令和４年６月現在）

科目	科目群	領域	授業科目
共通	共通科目	共通	スポーツ科学リテラシー特講
			スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習
			スポーツ科学セミナー
			スポーツ科学英語特講Ⅰ
			スポーツ科学英語特講Ⅱ
			インストラクションデザイン演習
			キャリアデザイン演習
			コープ特講演習・実習
課題研究	課題研究科目	課題研究	課題研究

昼間開講

鹿屋キャンパス

科目	科目群	領域	授業科目
専門	基礎科目	スポーツ総合科学	ヘルスサイエンス特講
			健康教育学特講
			運動処方論特講
			トレーニング科学特講
			スポーツコーチング学特講
			武道指導論特講
			スポーツパフォーマンス学特講
		スポーツ文化・社会科学	スポーツ史・運動文化論特講
			武道論特講
			スポーツ法・倫理特講
			生涯スポーツ学特講
			野外教育論特講
			スポーツ社会学特講
			コミュニティ・スポーツ論特講
			スポーツマネジメント論特講
		スポーツ生命科学	スポーツ心理学特講
			スポーツ医科学特講
			スポーツ生理学特講
			身体科学論特講
			スポーツバイオメカニクス特講
			運動生化学・分子細胞生物学特講
			スポーツ栄養学特講
			身体教育特講Ⅰ【KR】
			身体教育特講ⅡA【KR】
			身体教育特講ⅡB【KR】
	応用科目	スポーツ総合科学	ヘルスサイエンス特講演習（健康運動学）
			ヘルスサイエンス特講演習（スポーツ･リハビリテーション医科学）
			ヘルスサイエンス特講演習（ヘルスサイエンス）
			健康教育学特講演習
			運動処方論特講演習
			トレーニング科学特講演習（メンタルトレーニング論）
			トレーニング科学特講演習（トレーニング科学）
			スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（トラック））
			スポーツコーチング学特講演習（陸上競技（フィールド））
			スポーツコーチング学特講演習（水泳）
			スポーツコーチング学特講演習（体操競技）
			スポーツコーチング学特講演習（サッカー）
			スポーツコーチング学特講演習（バスケットボール）
			スポーツコーチング学特講演習（テニス）
			スポーツコーチング学特講演習（バレーボール）
			スポーツコーチング学特講演習（海洋スポーツ）
			武道指導論特講演習（剣道）
			武道指導論特講演習（柔道）
			スポーツパフォーマンス学特講演習
		スポーツ文化・社会科学	スポーツ史・運動文化論特講演習
			武道論特講演習
			スポーツ法・倫理特講演習
			生涯スポーツ学特講演習
			野外教育論特講演習
			スポーツ社会学特講演習
			コミュニティ・スポーツ論特講演習
			スポーツマネジメント論特講演習
		スポーツ生命科学	スポーツ心理学特講演習
			スポーツ医科学特講演習
			スポーツ生理学特講演習
			身体科学論特講演習（体力科学）
			身体科学論特講演習（生体ダイナミクス）
			身体科学論特講演習（身体機能論）
			スポーツバイオメカニクス特講演習
			運動生化学・分子細胞生物学特講演習
			スポーツ栄養学特講演習
			身体教育特講演習Ⅰ【KR】
			身体教育特講演習ⅡA【KR】
			身体教育特講演習ⅡB【KR】

夜間開講（６～７限）

遠隔授業

科目	科目群	領域	授業科目
専門	基礎科目	スポーツ総合科学	トレーニング科学特講【夜間】
			コーチング学特講【夜間】
		スポーツ文化・社会科学	スポーツ史・運動文化論特講【夜間】
			生涯スポーツ学特講【夜間】
			スポーツ社会学特講【夜間】
			スポーツマネジメント論特講【夜間】
		スポーツ生命科学	スポーツ心理学特講【夜間】
			体力科学特講【夜間】
			スポーツバイオメカニクス特講【夜間】
			スポーツ栄養学特講【夜間】
	応用科目	スポーツ総合科学	トレーニング科学特講演習【夜間】
			コーチング学特講演習【夜間】
		スポーツ文化・社会科学	スポーツ史・運動文化論特講演習【夜間】
			生涯スポーツ学特講演習【夜間】
			スポーツ社会学特講演習【夜間】
			スポーツマネジメント論特講演習【夜間】
		スポーツ生命科学	スポーツ心理学特講演習【夜間】
			体力科学特講演習【夜間】
			スポーツバイオメカニクス特講演習【夜間】
			スポーツ栄養学特講演習【夜間】

【注意事項】
1．授業科目名に【夜間】と付記してある科目については，教育方法の特例として夜間（６～７限）に開講する。
2．授業科目名に【KR】と付記してある科目については，連携大学院開設科目として集中講義等で開講する。

※授業担当教員の許可を得て，開講している授業時間帯において遠隔での受講が可能な場合は，相互に受講できるものとし，該当科目群の単位として認定する。

5　大学院設置基準第 14 条に定める「教育方法の特例」

◆目的

大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例を１・２年次にわたって実施し，社会人学生に対して，教育上特別の必要があると認められる場合，夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行うことにより，大学院での修学を容易にします。

特例の適用対象となる学生は，入学時に社会人（有職者）である者又は在学中に社会人（有職者）となった者です。

ここでいう，社会人の定義は，「職業上，恒常的に昼間大学で授業を受けられない者」です。

◆教育方法

教育方法の特例の適用を希望する者の教育方法等は，次のとおりです。

⑴　標準修業年限

標準修業年限は２年とします。

⑵　履修方法等

①　夜間等に開講される授業科目を履修できる期間は，原則として２年間とし，その間に課程修了に必要な 30 単位を修得することができます。

②　特例による授業科目の履修計画は，指導教員の指導の下で作成するものとし，原則として入学年度の当初に２年間の履修を見通して計画し，履修登録を行います。

⑶　授業の実施方法

授業は原則遠隔授業にて夜間等に開講することとし，２年間で修了に必要な単位が修得できます。

なお，授業担当教員と相談の上対面授業を実施する場合もあります。

⑷　授業時間

夜間の授業時間は，原則として次のとおりです。

第６時限：18：30 ～ 20：00　第７時限：20：10 ～ 21：40

⑸　授業科目

原則として 22 頁の授業科目開設表の夜間開講の授業科目とします。

なお，通常の時間帯に開講される授業科目も履修することができます。

⑹　教育方法の特例の適用を希望する場合

教育方法の特例の適用を希望する場合，事前に教務課教育企画係（TEL0994-46-4862）にご連絡ください。

6　長期履修学生制度

本研究科体育学専攻（修士課程）には，長期履修学生制度があります。これは，職業を有している等の事情により，標準修業年限（２年）で修了することが困難な大学院生が，標準修業年限を超えて一定の期間（３年又は４年）にわたり，計画的に教育課程を履修し課程を修了することをあらかじめ申請し，審査の上，許可されるものです。

なお，長期履修学生の授業料年額は，学生が標準修業年限（２年）在学した場合の授業料総額を，長期履修学生として許可された修業年数（３年又は４年）で分割した額となります。

ただし，許可された修業年数を超えて留年した場合は，留年分の授業料は一般学生と同額となります。

また，一般学生と同様に在学中に授業料が改定される場合があります。入学手続の際に必要書類を送付しますので，希望者はその際に申請してください。

申請手続時期：入学手続時又は，入学後１年以内とします。
ただし，やむを得ない事情により入学後１年を超えて長期履修が必要となった場合は，研究科教務委員会で審議のうえ，学長が認めた場合は許可されることがあります。
なお，入学後（在学中）の申請は，収容定員を超えている場合には，許可されないことがあります。

出願の際は、必ず募集要項（冊子）を入手し、添付されている願書等により出願してください。

体育学専攻（修士課程）学生募集要項（冊子）　添付書類

① 入学願書

② 研究計画書

③ 体育・スポーツ歴調書

④ 研究歴証明書

⑤ 志望理由書

⑥ 競技活動計画書・指導活動計画書

⑦ 指導活動計画書

⑧ 出願書類等提出一覧表

⑨ 受験票・写真票

⑩ 払込取扱票

⑪ 【入学検定料振替払込受付証明書（お客さま用）】貼付用台紙

⑫ 入学試験関係書類在中封筒（黄色）

⑬ 出願用封筒（薄緑色）